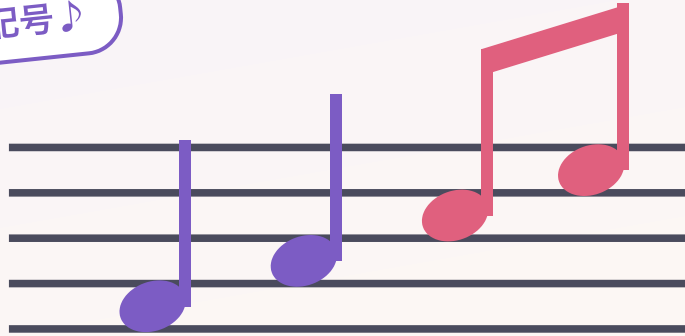


ト音記号 ♪



ヘ音記号も！

五線と音部記号

記号を知ると、楽譜がもっと読める



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましよう。

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まります。

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

五線の基本	3～5
2つの記号	6～8
大譜表とハ音記号	9～10
記号を使いこなす	11～14
読む力をきたえる	15～18
仕上げ	19
練習しよう	20～24
ふり返り	25～30

五線のしくみ

五線のしくみを、もう一度ふりかえろう。

五線は、音の高さを表すための、5本の横線でできた土台です。

この教材では、五線をもっとくわしく読みこなすための「音部記号（おんぶきごう）」を学びます。



ポイント

- 五線は、下から1本目、2本目と数えます。
- 音符は、線の上にも、線と線の間にも書かれます。

やってみよう

1. 紙に五線を書き、下から2本目の線を指でなぞってみよう。

書いて覚えよう

Handwriting practice area with 15 horizontal lines for writing the five-line staff.

線と間の数え方

線と間、それぞれの数え方を確認しよう。

線と間の位置



線の上 問 線の上

1つ上がるごとに、線→間→線と交互に音の高さが上がっていきます。

ポイント

- 五線には、5本の線と、その間にある4つの「間（かん）」があります。
- 線の音と間の音が交互に並ぶことで、8つの高さを表せます。

やってみよう

1. 上の3つの音符のうち、間にあるのはどれ？

書いて覚えよう

五線からはみ出た音も、表すことができます。

A purple musical note with a circular head and a vertical stem, positioned on a five-line staff. The note's head is on the first line from the bottom, and its stem extends upwards to the second line.

加線の音

五線の下に短い線を1本足して、その上に音符を置いています。

- 五線に入りきらない音は、加線（かせん）を足して表します。
- 加線は、必要な分だけ、上にも下にも増やすことができます。

1. 五線の下に、加線を1本書いてみよう。

書いて覚えよう

ト音記号が示す音の位置を知ろう。

treble clef / G clef

下から2本目の線が「ソ（ト）」であることを示す記号

- ト音記号は、渦の中心が下から2本目の線を通るように書かれます。
- 高めの音域を書くときによく使われ、リコーダーや歌のパートに多く登場します。

1. ト音記号がぐるっと囲んでいる線は、下から何本目？

低い音域を書くための記号を知ろう。

bass clef / F clef

上から2本目の線が「ファ（へ）」であることを示す記号

- ヘ音記号は、2つの点が上から2本目の線をはさむように書かれます。
- 低めの音域を書くときに使われ、ピアノの左手やチェロなどでよく登場します。

1. ヘ音記号は、ト音記号より高い音・低い音のどちらを表すのに向いている？

同じ五線でも、記号で意味が変わります。

8

2つの五線を組み合わせた楽譜を知ろう。

grand staff

ト音記号の五線とヘ音記号の五線を、中かっこでつないだもの

- 大譜表は、上にト音記号、下にヘ音記号の五線を重ねた形です。
- 広い音域を、1つの楽譜でまとめて表すことができます。

1. 大譜表は、主にどんな楽器の楽譜で使われるか考えてみよう。

ピアノの楽譜の見方・ハ音記号ってなに？

ピアノの楽譜と、もう1つの記号を知ろう。

ポイント

- ピアノの楽譜は、大譜表を使い、右手をト音記号、左手をヘ音記号で読むのが基本です。
- 両手の楽譜が同時に書かれているので、上下を見くらべながら演奏します。
- **ハ音記号**は、記号の中心がある線を「ド（ハ）」として示す記号です。

やってみよう

1. ピアノの楽譜で、右手と左手はそれぞれどちらの記号を使いますか。

書いて覚えよう

11

音域に合わせて、書き方を選ぼう。

- とても高い音・低い音を書くと、加線がたくさん必要になり読みにくくなります。
- そのようなときは、次のページで学ぶオクターブ記号が役立ちます。

やってみよう

1. 加線が3本以上必要になったら、読みやすさはどう感じますか。

書いて覚えよう

オクターブ記号

加線を減らす、便利な記号を知ろう。

オクターブ記号（8va）

ottava

書かれた音より1オクターブ高く（低く）演奏する記号

ポイント

- 音符の上に「8va」と書くと、実際は1オクターブ高く演奏します。
- 加線を何本も書くかわりに、オクターブ記号を使うと楽譜がすっきりします。

やってみよう

1. オクターブ記号を使う目的を、自分の言葉で書いてみよう。

書いて覚えよう

音部記号の書き方練習

記号を、実際に書いてみよう。

やってみよう

1. 五線を書き、下から2本目の線を通るようにト音記号をなぞって書いてみよう。
2. 別の五線を書き、上から2本目の線をはさむようにヘ音記号をなぞって書いてみよう。

ポイント

- 何度も書くうちに、記号の形と線の位置が自然に結びついていきます。
- きれいに書けなくても大丈夫。位置が合っていることが大切です。

書いて覚えよう

Handwriting practice lines for musical notation. The area contains 18 horizontal lines for writing.

五線上の音を、すばやく読む練習をしよう。

五線上の音を、すばやく読む練習をしよう。

この音は何？



②

③

①②③の音符が、ドレミでいうと何の音かを考えましょう。

①②③は、それぞれ何の音？

1. ① _____ ② _____ ③ _____

書いて覚えよう

低い位置の音も、すらすら読めるようになろう。

- 低い音は、ドの位置から下へ1つずつ数えると読みやすくなります。
- 加線の音は、いちばん近い五線の音から数えるのがコツです。

やってみよう

1. ドから下へ「ド・シ・ラ・ソ」と、声に出して数えてみよう。

書いて覚えよう

高い位置の音も、すらすら読めるようになろう。

- 高い音は、ソやドなど、覚えやすい場所を目印にして数えると読みやすくなります。
- 上に行くほど加線が増えるので、目印からの距離で考えるのがコツです。

やってみよう

1. ソから上へ「ソ・ラ・シ・高いド」と、声に出して数えてみよう。

書いて覚えよう

まぎらわしい場所に、注意しよう。

よくあるまちがい

1つずれて読んでしまう

加線を1本見落とす

こうして防ぐ

1つずつ確認する

見落としを防ぐ

- 急いで読もうとすると、まちがえやすくなります。
- ゆっくりでも正確に読むことを、まず大切にしましょう。

1. あなたが音の位置でまちがえやすいのは、どんなときですか。

[illegible]

音部記号クイズ・五線に音を書いてみよう

学んだことを、まとめてためそう。

1. ト音記号が示す線の音は？

1. _____

2. ヘ音記号が示す線の音は？

1. _____

やってみよう

1. 紙に五線とト音記号を書き、好きな場所に音符を1つ書きこんでみよう。それは何の音かな。

書いて覚えよう

20

実際にやってみよう・ペアやグループで練習しよう

1人でも、みんなでも記号の練習を楽しもう。

A (五線を指さして) この記号は？

B (答える) ト音記号

A (別の記号を指さして) これは？

B (答える) _____

A (音を指さして) これは何の音？

B (答える) _____

ポイント

- A が楽譜のどこかを指さし、B が記号や音の名前で答えるクイズです。
- 交代しながら出題すると、より楽しく練習できます。

ワンポイント まちがえても大丈夫。ゆっくり、ドの位置から数え直すくせをつけましょう。

書いて覚えよう

よくあるつまずき・上達のコツ

つまずきは、上達のサインです。

つまずき

よくあること

2つの記号を混同する

どちらがどちらかわからなくなる

加線の音を読みまちがえる

数えまちがいが起こる

コツ

こうしてみよう

形の特徴で覚える

渦はト、点はヘ

1つずつ指でなぞる

急がず確認する

ポイント

- わからなくなったら、4～5ページにもどって確認しましょう。
- 少しずつ読める音を増やしていけば、確実に上達します。

やってみよう

1. あなたが記号でつまずきやすいことは？ _____
2. 上のコツから、1つえらんで試してみよう。

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

五線の基本

☐ 五線

音符を書く5本の線

☐ 間

線と線の間の場所

☐ 加線

五線からはみ出た音のための線

2つの記号

☐ ト音記号

「ソ」の位置を示す記号

☐ ヘ音記号

「ファ」の位置を示す記号

☐ ハ音記号

「ド」の位置を示す記号

合わせて使う

☐ 大譜表

2つの五線を組み合わせたもの

☐ オクターブ記号

1オクターブ上下を示す記号

☐ 音域

楽器や声が出せる音の範囲

読む練習

☐ 音の名前当て

五線上の音を読む練習

☐ 低い音のコツ

ドから下へ数える

☐ 高い音のコツ

目印から数える

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。記号がわかると、読める楽譜の幅がぐっと広がります。

書いて覚えよう

● オ. 「ファ」の位置を示す記号

ト音記号を1回書いてみる

頭の中でDの位置を思い出す

ドレミファソラシドを声に出す

楽譜の音符を指さして読む

へ音記号を1回書いてみる

家族に音部記号クイズを出す

- 1回5分でも、毎日続けることで記号が自然に身につきます。
- 書くことと読むこと、両方をバランスよく練習しましょう。

発表してみよう・感想を書こう

覚えたことを、人に説明してみよう。

説明した記号

示す音

むずかしかったと
ころ

説明した相手

Ken の例

説明した記号 ヘ音記号／示す音 ファ／むずかしかったところ ト音記号との見分け方／説明した相手 家族

感想を3文で書こう

① 音部記号を学んで、～と気づきました。② とくに、～がむずかしかったです。③ 次は、～に挑戦してみたいです。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

楽譜の世界は、まだまだ広がります。

もっと知りたい人へ

ピアノの楽譜で 大譜表を実際に見てみる

動画で
低音楽器の演奏を見る

次のステップ

歌う

楽譜を見て正しい音で歌う

リコーダー

ト音記号の楽譜をふいてみる

合奏

いろいろな記号の楽器と合わせる

ポイント

- 音部記号を知ると、いろいろな楽器の楽譜が読めるようになります。

書いて覚えよう

1. 音部記号とは、どんなものですか。
2. いちばん読みやすくなった記号は？
3. これから挑戦してみたいことは？

覚えたことを家族に説明する

できたミッションに✓をつけよう： ☐1 ☐2 ☐3 ☐4

29

五線と音部記号チャレンジ

教室の外でも、記号はすぐに見つかります。

さがそう

身のまわりで**楽譜**を1つ見つける

さがそう

その楽譜の**音部記号**を確認する

読もう

五線の音を**3つ**ドレミで読む

こたえ

L14 ①ミ ②ラ ③高いド

L18-19 1. ソ（ト） 2. ファ（ヘ）

L26 五線→イ ト音記号→ア ヘ音記号→オ 大譜表→ウ オクターブ
記号→エ 2. ソ（ト） / 3. ファ（ヘ）

L33 （例）音部記号は、五線のどの位置がどの音かを示す記号。
ト音記号は高め、ヘ音記号は低めの音を表す。

書いて覚えよう

五線と音部記号（Season 2 | No.11）

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。